様式3

学校番号 57

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立武蔵台高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

			評価（総合）
学校運営方針	資質・能力ベースの新学習指導要領に応え得る教育活動を展開する。また、多くの生徒が特色化選抜で入学しているという実態に合った学習指導・進路指導・生徒指導を推進する。これによって、生徒はもとよりその保護者からも高い満足度が得られるようにする。		B
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
新型コロナウイルス感染症に関する制限によって、多くの学校行事が行えず、従来通りの教育活動ができなかったが、その中でも、生徒がいきいきと学校生活を送ることができたことは大きな成果であった。課題としては、①分掌の再編による学校組織の変更化、②特色化選抜入試に関する分析と調整、③生徒の第一進路希望を踏まえたキャリア教育の充実、④すべての教育活動における通徒教育、⑤人権教育の充実、⑥ICTを活用した授業の更なる充実の5点である。	新学習指導要領の趣旨と内容への適切な対応	授業のねらいと指導方法、評価とが結びついた「主体的・対話的で深い学び」を推進する。また、個別最適化を踏まえた基礎学力の在り方を検討し、生徒一人ひとりの学びを保障する。	
	生徒の進路希望に見合った基礎学力の定着・伸ばし	学力実態に合ったレベルで授業を行うとともに、週末課題等も実態に合った習熟レベルと量を設定する。考査問題についても、教務規定に則ったレベルで実施する。	
	3年間を見通した進路指導計画の確定	進路指導計画の「見える化」の徹底を図る。また、「地元有力私大「推し」」の理由を、職員はもとより生徒、保護者に対しても伝達し、共通理解が得られた進路指導を行う。	
	生徒の主体性を担保した学校行事・学校生活の実現	学校行事や生徒会活動、委員会活動等を通して、生徒の「主体性」を育て、「いきいき」な学校生活が送れるようにサポートする。	
	新規コンテンツを盛り込んだユネスコスクールの活動推進	新たに設置した「総探・図書・ユネスコ課」をしっかりと機能させる。	
	授業をはじめさまざまな場面でのICT化の推進	昨年度以上にタブレット端末を活用する。また、武蔵台チャンネルの円滑な運用を図る。	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務課	基礎学力の定着	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、生徒の活動を多く取り入れた授業を推進する。	B	B	B	・1人1台のタブレット端末の利用チームを作り、発信して活用の幅を広げる。 ・考査欠席の対応を明確にする。 ・考査前の行事を減らし、落ち着いた環境作りを行う。 ・教務規定の周知・徹底を生徒手帳がないので、担任や学年団で行ってもらう。
			分かりやすい授業、学習意欲を喚起する授業推進のために、タブレット端末やICT機器を積極的に活用する。また、オンライン授業にも対応できるスキルを身につけ	B			
			成績不振の生徒に対して、期末考査前に特別補講を実施し、学習方法を身につけさせるとともに、基礎・基本の徹底を図る。	A			
			生徒の学力実態に応じた授業展開や課題の提示を行うとともに、小テストや定期考査の難易度と量が適切であるかを確認し、出題する。	A			
		授業規律の確立	5分前行動の習慣を身につけさせ、時間と心にゆとりをもたせる。授業開始前に準備を完了するよう指導し、時間に対する意識を向上させる。	B			・校時の周知・徹底を行い、時間と心にゆとりをもたせ、自主的に行動できる生徒の育成を行う。 ・「特色化入試」での入学者が3学年揃うため、学力面の支援を組織的に対応していく。
			机上の整理、荷物の整理整頓、黒板の清掃、換気を行い、学習環境を整える。	A			
			始業時の黙想、挨拶を徹底し、学習に取り組む姿勢を向上させる。	A			
			授業中の居眠り等は認めないという厳然とした態度で臨むとともに、生徒が素直に取り組むような授業の改善と工夫を行う。	B			
		校務の円滑化	マニュアルをもとに、校務支援システムに完全に慣れていただき、スムーズな成績処理を目指す。	B			・「総合的な探究の時間」が時間割に組み込まれた。各学年で運用できるように、サポートする。 ・新課程の大学入試「情報」について、チームで対応する。 ・成績処理について、各学年で組織的に行うことができるようにする。
			日々の時間割変更については、全職員の協力を仰ぎつつ変更を確実に行い、周知徹底させ、授業の円滑化を図る。	B			
			急な行事変更における授業カットや補充に対して、授業のコマ数を確認しながらできる限り柔軟に対応する。	B			
			教育課程を見直して、各教科・科目の単位数や類型について本校生徒の実態に即した形を作り上げる。	B			
	広報課	インスタグラムや本校公式ウェブページをタイムリーに更新するとともに、内容を充実させる。	ウェブページに掲載する記事を集める仕組みを構築し、迅速な記事の更新を行う。年間50回の更新を行う。	A	A	A	・Instagramによる情報発信を継続的に行い多くの中学生に見てもらえる用にし、フォロワーを1000人越を目指す。 ・古い ホームページの記事の更新を進め、部活動のページの更新をタイムリーに行っていく。
			数年に亘り更新が滞っている記事について、内容を刷新する。古い記事を選び出し、公開を取り止めることを検討する。	B			
			Instagram を用いて、中学生を対象とした情報発信を行う。最低週1回を目標とする。	A			
		「634ニュース」を発行し、本校の教育活動を中学校へ積極的にアピールする。	634ニュースを発行し（年8回、4月、8月、3月を除く。1月と2月は合併号）、各中学校に配布。進路選択の一助となるようにする。	A	A		・634newsを用いて、中学校に対するアピールを継続して行っていく。 ・634newsが中学生にとって面白いものになるように、紙面を工夫していく。
			中学生が「634ニュース」に興味を持てるような内容及びデザインになるように、工夫を行い志願者増につながるものにする。	A			
		中学生進路相談事業・中学生体験入学を充実させ、志願者数を増加させる。	中学生進路相談事業・中学生体験入学が志願者増に繋がるように、生徒会と協力し魅力あるプレゼンを実施し、武蔵台の魅力が伝わる工夫を行	A	A		・パンフレットやポスターが中学生やその保護者にわかりやすく興味深いものになるよう作成を行う。 ・中学生体験入学、進路相談事業を中学生が興味を持てるものにしていく。
			武蔵台の魅力が伝わるパンフレット、ポスターの作成を行う。	A			
		保護者へ必要な情報を適切に提供する（情報・広報）。	PTA新聞「弘報天拝」をPTA広報委員会と協力して年間3回発行する。	A	A		・PTA新聞の年間3回の発行を行う。 ・Instagram を保護者にも周知してもらい、教育活動の内容をタイムリーに発信していく。
			Instagram を保護者にも周知してもらい、教育活動の内容をタイムリーに発信していく。	A			
生徒部	生徒指導課	新学習指導要領を踏まえ、生徒の発達を支える指導の充実を目指す。資質・能力・人間性等を育むための基盤としての学習環境の整備と学習規律の確立を目指す。	生徒心得の実践を徹底し、集団生活のルールやマナーを身に付けさせる。	B	A	B	・コロナの影響下で3年目となり、昨年同様、全体指導をする機会は少なかったが、「挨拶」については、部活動の生徒を中心に行っており良い状況である。集団におけるルール・マナーの遵守は、担任・副担任や学年集会等で根気強く指導していかなければならない。
			始業時の身だしなみチェックや黙想、学習環境の整備を通して、学習規律の確立を目指す。	B			
			指導の差が出ないように、学年・教師間で意思疎通を行ったり、校則等の見直しを必要に応じて随時行う。	B			
			個別の対応が必要な生徒やLGBTQなへの対応が必要な生徒については、生徒支援委員会での情報をもとに学年や担任と連携しながら迅速に対応する。	A	B		・学校行事については生徒会、実行委員会を中心に生徒会執行部と連携して上手くやれていた。部活動は3年生が引退し、特色化選抜の部活動で入学してきた生徒が中心となって活動するように切り替えられてきた。しかし、部活動内でのトラブル等も聞かれたこともあり、顧問監督部門との連携を密にして対応していく必要がある。学校生活や部活動内でSNSによる人間関係のトラブルが多った。スマートフォンの使い方、SNSの使い方を十分考えさせ、指導していく必要がある。特にSNSは、誰でもいつでも見ることができると言うことを認識させ、使ってはいけない言葉など具体的に指導していかなければならない。さらに、毎年入学してくる生徒に継続的に指導していかなければならない。
		学校行事・委員会活動・部活動を通じて明るく、楽しく、いきいきと学校生活を送ることができることは大きな成果であった。課題としては、①分掌の再編による学校組織の変更化、②特色化選抜入試に関する分析と調整、③生徒の第一進路希望を踏まえたキャリア教育の充実、④すべての教育活動における通徒教育、⑤人権教育の充実、⑥ICTを活用した授業の更なる充実の5点である。	生徒会や実行委員会でのリーダーの育成を行い、より多くの生徒が学校行事に積極的に取り組めるための対応を施す。	B			
			学力実態に合ったレベルで授業を行うとともに、週末課題等も実態に合った習熟レベルと量を設定する。考査問題についても、教務規定に則ったレベルで実施する。	B			
			天拝小学校との合同挨拶運動を年3回実施する。7月末の天拝小学校サマースクール参加及び交流天拝山登山を年1回行う。	A			
			部活動加入率80%以上を目標とする。また、部活生自らが、部活動内で「孤立」や「いじめ」が起こりにくい体制を作るよう支援する。	B			
			SNS上のルールやマナーを守ることで人間関係のトラブルを起こさない指導を行う。	B			
		学校生活のあらゆる機会を通じて、生徒の安全に対する認識を深めさせ、危機対応能力を身に付けさせる。 特に交通ルール・マナーの励行指導を徹底させる。	自転車通学生に対して自転車点検を徹底する。他の交通手段も含めて安全指導を徹底し、交通事故0を目指す。	B			・本年度は、外部（警察・自動車学校）等の交通安全教室を実施することができた。しかし、交通マナーの苦情や事故・ケガが多かった。保護者への報告等、交通マナーについては担当の先生はよくやっていただいている。苦情・事故が起これば+HR や学年集会では意識起を呼びかけながら、粘り強く生徒に話していくしかないと考えている。次年度以降も継続して安全指導を行っていく必要がある。
			命を守るための注意喚起を行うため、交通安全教室を実施し、登下校時のスマートフォンの利用マナーや交通マナーの指導を行う。	B			
			交通事故や交通違反が発生した場合は、GSSを招石→設明し+HR等で指導する。また保護者に対してはメールで連絡し、家庭での指導を行ってもらう。	A			
			事故の有無にかかわらず、全校集会・学年集会等で交通ルール・マナーの指導を行う。	B			
	保健環境課	（1）校内美化とゴミの持ち帰りの推進を通じて、愛校心や公共施設を大切にする心を養う。	ゴミの持ち帰り・古紙回収の推進を行う。	B	B	B	・美化コンクールを今年度2回（3年生は1回）実施したが、学年によっては前回よりも清掃に対する意識が下回った状態になったので、次年度は美化委員を通して、もっと呼びかけを行っていきたい。
			美化週間の実施を通して美化意識の向上を図る。（1・2学期実施）	A			
			職員の、清掃に対する意識向上を図るために、研修や広報の工夫をする。	B			
		（2）教員と生徒との信頼関係を確立する支援を行う。	生徒支援委員会を年20回以上行う。	B	B	A	・年々、担任の先生方の精神的負担が重くなってきているため、次年度もスクールカウンセラーによる職員研修または生徒向けの講演会などの実施を検討していきたい。
			担任会・学年会と生徒支援委員会との情報交換・支援を行う。	B			
			スクールカウンセラーによる職員研修会を実施する。	A			
		（3）危機管理体制の充実を図り、学校生活における事故を防止する。	危機管理体制の充実のため、予告なしの防災避難訓練を計画し、日頃から避難方法、避難経路を意識させる。	A			避難訓練は2学期に実施することができ、校内の安全点検も伴せて十分にできた。保健室による「健康相談」も細かく行って頂き、体育祭での保健室利用も例年より少なかったようである。「感染症予防対策」に関しては、Classによる体温入力を始め、まだクラス間で差があるようなので、次年度更に強化していく必要性を感じた。
			宿泊研修や行事前に「健康相談」を実施し、事故防止に努める。	A			
			新型コロナを含む、感染症対策に徹底して取り組む。（黙食・手洗い・消毒の徹底）	B			
			危機管理マニュアルの作成と安全点検を3回以上実施する。	A			
		（4）生徒の基本的生活習慣の確立を目指し、健康管理に努めさせる。	保健委員会の活動として、保健だより及び掲示資料作成を合わせて10回以上行う。	A	A		・保健委員会の研究発表大会においては、県で最優秀賞を頂くなど、大きな成果を収めた。次年度からの時制変更に伴い、朝が苦手な生徒への朝の基本的生活習慣の確立に向けての指導を全職員で行う必要がある。
			保健室員会の研究・ベルマーク活動を今後も継続して行う。（学校保健会・天桜祭発表）	A			
			感染症対策及び換気や消毒補充の活動について、委員会で検討して行う。	B			
進路部	進路指導課	**<1年>** ①幅広い教養を身に付けさせることにより適正に文理選択をさせる。 ②振り返りの習慣を身に付けさせる。	好学プロジェクト・学部学科学習会で大学の講義を受講することにより、進路選択、文理選択の適正化を図る。	A	B	B	・好学プロジェクトは興味の持てる内容で、前向きに取り組むことができた。 ・スタディサポートの活用、模擬試験の受験の仕方については、指導するための十分な時間を確保することが必要である。 ・好学タイムについては、生徒が自ら積極的に取り組むことができるように、教員による環境作りが大切である。
			スタディサポートオリジナルドリルの活用、模擬試験の受験の仕方、成績表の見方と保存、復習の仕方を身につけさせる。	B			
			好学タイムを有効に活用し、予定や計画を手帳に、学習記録やポートフォリオをClassiに蓄積させることで「自走」できる生徒を育成する。	B			
		<2年> ①学問分野研究を行うことにより、志望校の絞り込みを行わせる。 ②ポートフォリオの蓄積により、自己の強みに目を向けさせる。	キャンパスワークショップを通じて、それぞれの大学の特徴や魅力に目を向けさせ、進路意識を醸成する。	A	B		・キャンパスワークショップで進路意識の向上を図ることができた。入試動向説明会の実施も生徒と保護者の意識向上に寄与できた。 ・手帳やポートフォリオの主体的な活用については、最上級生となる来年度に向け、今後より指導していく。 ・Classiは昨年度より活用できている。
			1年1月模試結果と志望校合格ラインとの差の確認、スタディサポートオリジナルドリルの活用、模擬試験の受験の仕方、成績表の見方と保存、復習の仕方を身につけさせる。	B			
			好学タイムを有効に活用し予定や計画を手帳に、学習記録やポートフォリオをClassiに蓄積させることで「自走」できる生徒を育成する。	B			
		<3年> ①個々の生徒に応じた進路・受験方式を提案し、進路希望を達成させる。 （福岡大学　実数100名） ②自己表現力を身に付けさせる。	国公立大学を含む、多様な特別選抜入試のための小論文指導、面接指導などを充実させる。	A	A		・面接・小論文指導は、3年間を通した、読み・書きの基本的能力の向上、社会的事象への関心を高める手立てをより継続的に行う必要がある。 ・進路検討会は適宜実施し、学年団で進路方針についての共通認識を持つことができた。 ・好学タイムは落ち着いて自学はできており、その中で自己管理の意識を高く持つ生徒も出てきている。
			進路検討会を3回（7、12、1月）実施することにより、各人に応じた適正な進路を提案する。	A			
			好学タイムを有効に活用し予定や計画を手帳に、学習記録やポートフォリオをClassiに蓄積させることで「自走」できる生徒を育成する。	B			
		<共通> ①生徒のメタ認知力の向上 ②生徒の学力実態に応じた指導の充実 ③英語検定の活用	朝読書時間を好学タイムに変更し「自己管理の時間」と位置付けることで自発的に生活する生徒を育成する。	B	B		・現実の問題はあったが、学習記録の習慣が付いた生徒も増えた。「自走」する意識を涵養する指導を学校全体の取組として行う必要がある。 ・朝課外のない中で、生徒が「自走」できるようにする学習指導のあり方が課題となる。 ・英語検定受検については生徒自身が自らを高める姿勢を作る上でも有効であり、より推奨していく。
			レベル別講座制課外（1、2年）の実施と課外実施科目の工夫（3年）により、生徒の学習に主体性を持たせる。	A			
			英語科との連携により英語検定受験を奨励し、英語資格検定利用枠での大学入試合格者数増を狙う。	B			
	総探・図書・ユネスコ課	【総合的な探究の時間】 探究の過程を通じて、生徒が探究の意義や価値そのものを理解することを目指す。	1年の課題研究については、自己と地域社会をテーマとして探究活動を行う。	A	B	B	・総探WEEKでは単元ごとに情報収集、整理分析、まとめ、発表の流れで学習を進め、回を重ねる度に学びを深化させることができた。 ・次年度も外部との連携を強化し、行事や教科での学習内容と連動させ、探究の過程を充実させる。また、長期休暇を利用したフィールドワークも取り入れる。
			2年の課題研究については、国際理解や持続可能な開発目標に関する研究テーマを生徒それぞれが設定して探究活動を行う。	A			
			3年の課題研究については、1・2年時の課題研究を踏まえて自らの進路目標に関連した個人研究を行う。	B			
			小論文や読書の取り組みを探究活動と連動させ、相乗効果を図る。	B			
		【ユネスコスクール活動】 地球規模の諸問題、人権及び民主主義、異文化、環境、地域・歴史教育を柱に、国内外の学校との交流を通して、情報や体験を分かち合うことを目指す。	ユネスコ委員会を中心に本校のユネスコスクール活動を活性化する。	B	B		・「服のチカラ」「寺子屋運動」プロジェクト等、昨年度から引き続き実施した事業のみならず、生徒会やユネスコ委員会を中心として学校外の様々なユネスコ活動に参加することができた。 ・次年度は国連が定めた国際デーと連動した事業を新たに立ち上げ、学校全体で取り組むことによって、学校のブランディングに貢献する。
			ユネスコ部の対外的な活動（SDGsコンテスト、模擬国連大会等）を活性化する。	A			
			文部科学省、日本ユネスコ協会、大学との連携をとりながら、国内外の学校間連携を目指した事業を展開する。	B			
			「服のチカラプロジェクト」「寺子屋プロジェクト」「ペットボトルキャップ回収」等の活動を継続して実施する。	B			
		【図書】 図書館利用の活性化を図り、読書の推進と読解力向上を目指す。	Class配信、掲示板、Library News等の図書館からの情報発信を充実させる。	A	A		・1年生の総探で実施した「ビブリオバトル」、Classiを利用した書籍の情報発信、図書館祭等の委員会活動を通して、図書館の活性化に寄与することができた。一方、好学タイムを利用した朝読書の取り組みが不十分である。 ・次年度は朝読書の年間計画に沿って全校で読書の推進と読解力向上を目指す。
			天桜祭や図書館祭の企画内容及び事前の広報活動を見直し、生徒にとって図書館がより身近で利用しやすい場所になるように工夫する。	A			
			授業で図書館を利用する機会を増やすための環境整備を図る。	B			
			教員が生徒の読書意欲を喚起できるように、図書購入の希望調査を適宜行い、選書委員会の充実化を図る。	A			
研修部	研修課	校内の実態に即した職員研修会を企画運営するとともに、職員の校外研修を推進する。	本校の課題解決に向けて効果的な職員研修会（年5回）を企画し、実施する。 第2～4回の職員研修会は動画の視聴を行う。	A	B	B	・職員研修会は、予定通り実施できている。次年度も今年度と同様に実施していく。 ・校外研修会等は、掲示板に案内しているが、参加数は少ない。次年度は更に職員に案内を呼びかけていく。
			教師力を高めるため、教育センター や各種の校外研修会等を職員に案内し参加を促す。	B			
			県立学校教員新研修体系に基づいて、各研修を円滑に行う。	B			
		教育実習の充実を図る。	教育実習生の大学機関と連携をとり、教育実習を円滑かつ充実したものにする。	A	A		・教育実習の担当者が途中から休みとなったが、担当者と連絡をとり、今年度は無事に終わった。今後は次年度の準備と引継ぎをしていく。
			教育実習を将来の教員となるよう、親身になって指導していく。	A			
		研究紀要を作成・発行する。	各分掌と連携をとりながら、各分掌の取組等を掲載する。	B	B		・研究紀要については、その作成手順を知っている人がいないのが実情である。他分掌と連携をとり、内容を精査しながら、取り組んでいくつもりであるが、研修課の人数が少ないのが痛手である。
			校内研修である研究授業や若年教員研修の実施内容等を掲載する。	B			
			校外研修のレポート等を掲載する。	B			
庶務	庶務課	1　式典関係の企画および円滑な運営	各部・各学年と連携を図り、入学式・卒業式・各式典等、主要学校行事に関する要項を迅速に作成・配付し、行事の円滑な運営をサポートする。	A	A	A	・創立記念式典は、生徒指導課、ユネスコ課、関係の先生方との連携のもと、予定通り実施できた。今後は、卒業式の実施に向け企画していきたい。 ・入学のしおりは、発行に向け各先生方に原稿の修正作業を進めていただいている。遺漏なく発行できるようにしたい。
		2　各発行物の確実な発行	学校要覧・入学のしおりの発行を、ミスなく確実に行えるように、各部との連絡・調整、スケジュール管理を行う。	A			
			職員間の情報共有を図るために、2ヶ月ごとの行事予定表を前月の下旬には配布する。	B			
		3　同窓会・PTAとの連携と関連行事の円滑な運営	各部と・各学年と連携して、PTA総会やPTA会合の運営を円滑に行う。	A	A		・PTA各委員会の活動は、役員さん、先生方の御協力で予定通り行っていただいた。 ・高P連福岡地区の発表校であったが、事務職員の方々、生徒指導課の先生方と連携・協力をし、発表を通してPTA活動の活性化につなげることができた。
			同窓会と連携し、同窓会総会・同窓会入会式等の行事の運営をサポートし、同窓会全体の活性化に努める。	A			
		4　奨学金に関する業務の円滑な遂行	奨学金担当者の業務内容を明確にし、迅速で的確な業務にあたる。各奨学金案内はHPに掲載アップし、保護者・職員へもClassiで配信する。担任には各要項をペーパーベースで配付する。	A	A		・現学金の業務は、紙ベースでの案内からclassiでの配信に切り替え、情報が直接生徒、保護者に行き渡るようにした。 ・職員室の配置を昨年度より若干変えた。学年の先生方が動きやすいように環境を整えていきたい。
			日本支援機構の予約奨学生に関する業務を学年・事務担当者と協力して行う。	A			
		5　職員室環境の整備・向上	年度当初・年度末の整備を庶務課で協力して行う。	A	A		
			職員室の環境整備で改善すべき点があれば、要望をまとめる。	B			
学年経営部	第一学年	武蔵台生として、規律ある生活習慣を確立し、規範意識と所属意識を持ち、集団の中で主体的に取り組む生徒の育成を図る。	「自立と協働を学ぶ体験活動」を通して、入学段階で高校生としての規範意識を高めさせる。	A	B	B	・行事を通して、高校生活における基本的な生活習慣を身に付けることができた生徒が増えてきているものの、挨拶指導やスマートフォンの利用状況、部活動遅部者への対応や登校時間の徹底など、職員間で状況や対応を共有して次年度以降も継続して指導していく。 ・文化祭、体育祭の中で、各クラス生徒で役割を決めて協力的に行事を行うことができた。次年度では、装置ができる工夫としてのリーダーシップと3年生へのフォローワーシップを高めるよう促していきたい。
			出席皆勤200名以上、部活動加入率80%を目指す。	B			
			文化祭や体育祭など各種行事や委員会活動への積極的参加を奨励し、相互来認の中で集団活動に取り組み、活動を通して連帯感や達成感を高めさせる。	B			
			凡事徹底のもと、日常の清掃活動を徹底させ、学習環境を整えさせる。	B			
		学習習慣の確立、進路目標の明確化を図り、将来進路の視野を広げる。	課題研究など、自らの可能性を広げるため、進路について研究し、より選択肢を広げながら、自分の適性に応じたコース選択を行わせる。	B	B	B	・総探プロジェクトなどの活動においてChromebookを活用し、プレゼン資料の作成から発表までが円滑と積極的に取り組む生徒が多く見られた。次年度では国家の活用を積極的に推進し、自ら考えて検討する力を高めさせていく。 ・学習に関する取り組みに関して、不備がないように自覚し、自律して取り組む姿勢を継続してできるように日頃の授業や集会等を活用して指導していく。 ・Classiと手帳の活用において十分な時間を使って指導ができていない部分があるため、次年度はHR や好学タイム等の時間を活用して推進していく。
			教材教具の管理、予習・復習、態度など、授業に対する姿勢を大事にさせ、時間や期限を守る指導を行う。	B			
			好学プロジェクト大学研究を通し、将来、大学で学ぶことへの興味・関心を高めさせる。	A			
			Classiのポートフォリオを活用し、進路目標の設定、活進な結果分析、振り返りなどを生徒個人にデジタル化し、記録・蓄積させ、「今未来手帳」を活用し、将来の見通しを立てた活動を行わせる	B			
		学校生活のあらゆる場を通して人権意識を涵養し、心身の健全な発達を図る。	日々の活動や取り組みを通して、学校生活の中で他者を敬う態度やいじめを許さない意識を涵養する。	B	B		・生徒間のトラブルなどについて、情報共有ができており、初期対応において連携をとることができた。新型コロナウイルスの感染状況が拡大する中では、集会の機会を十分に確保することができないため、日常の中で継続して集団における正しい人権意識の涵養を進める。また、全体への呼びかけや指導の後にクラス単位で担任からの補足を行うなどの細やかな配慮を考えて進めていくようにする。 ・長期欠席の恐れのある生徒については、各担任に負担がかからないように、生徒支援委員会や学年全体で継続して対応していく。
			生徒支援委員会・学年・部活動顧問と連携し、情報の共有に努める。	A			
			HRや集会等を用い無意識に他者を既判する行動をとったり、SNS等で個人情報を流出させる行動をとることのないよう指導する。	B			
			学年通信の定期的な発行（5回）と家庭との適切な連携により協力体制を構築する。	B			
	第二学年	時間やルールを守るなど、基本的生活習慣を確立することで社会性を高め、学校行事等の企画、運営に貢献させて、自己の成長を図らせる。	授業や集会等の開始時間を厳守し、授業や活動に集中できる環境を自ら作らせる。	B	B	A	・時間厳守や挨拶の励行など基本的生活習慣が身についている生徒が多数になる中で、身についていない生徒も見受けられる。さらなる指導の工夫が必要。 ・天桜祭やクラスマッチの運営には多くの生徒が積極的に取り組む姿が見られ、概ね良好である。最高学年に向けて、リーダーとしての質を高める指導をする。
			爽やかな挨拶を基本として、良好なコミュニケーションをとる能力を高めさせる。	A			
			日々の学習だけでなく、文化祭、体育祭等でリーダーシップを発揮させる。	A			
			委員長等の役割を通して学校全体を俯瞰し、生徒同士が協力することで、各委員会活動の活性化を図る。	B			
		進路目標を明確にするために、進路指導に関する行事の充実化を図り、目標達成に向けた学習習慣の確立を目指す。	キャンパスワークショップをはじめとした、進路研究を通じて、入試や就職試験に対する意識向上を図り、模試や資格取得に計画的に取り組ませる。	A	B		・Classiの活用は向上しつつあるが、手帳や好学タイムの位置づけが中途半端で指導の温度差がある。ます、指導者側の共通理解と指導体制を明確にすべきである。 ・卒業後の進路実現に向けて、学習習慣の確立と的確な進路指導が必要。
			予習・復習、提出物の管理にClassiを、手帳を活用し、生徒が自主的に予習を管理できるよう指導をとおして、生徒の実態に応じた学習習慣の方法を継続して指導する。	B			
			授業を中心に取り組ませるとともに、講座制課外や学力補充指導などを通して、生徒の理解度に合わせた指導を充実させ、学年全体の学力向上を図る。	B			
			「当たり前のことを当たり前にできる」を徹底し、基本的生活習慣を確立させ、年間皆勤者180名を目指す。	A			
		自他共存の精神を基盤に、中堅学年としての責任を自覚し、最高学年に向けて自立した生徒の育成を目指す。	人権学習だけでなく、日常の学習活動の中で自他尊重の精神を涵養し、高い規範意識と思いやりの深い生徒を育成する。	B	A		・規範意識の涵養については不十分な点が多い。特にスマートフォンの使用をはじめ、校則については時代の流れに沿った変更が必要であり、教師側のマインドセットが急務であると感じる。 生徒支援委員会などを通して生徒一人一人への対応をしているが、家庭環境、友人間のトラブル等生徒の抱える問題が指導の範囲を超えているのか、思わしい成果が得られなかった。
			担任会や生徒支援委員会の情報共有をすることで、多様化する生徒への学生チームとしての個別対応能力を高める。	A			
			集会や学校行事の企画、運営に積極的に取り組ませることにより、学校の中核を担う学年としての意識を高め、リーダーの育成を図る。	A			
			学年通信の定期的な発行や三者面談、PTA活動等を通して情報共有を密にし、保護者と連携しながら生徒の育成に努める。	A			
	第三学年	(1)より高い進路目標を立てさせるとともに、第1志望の進路を実現させ、地域の信頼される評価を得る。 （達成の目安として、福岡大学合格者の実人数を100名を目標とする。）	二者面談の適宜実施と校内大学説明会及びオープンキャンパスを活用し、早期且つひとつ上の進路目標を確立させる。	A	B	B	・二者面談の適宜な実施により進路目標の確立につながった。なお来年度は適切な時期に面談週間等の設定が必要と考えられる。 ・進路指導課の努力により多様な課外の科目の設定がなされ、個々の進路に応じた指導を充実することができた。 ・Classiでの「学年通信」の配信に関しては、学年後半で十分にできなかったことを今後の課題としたい。
			学習計画や学習方法を常に見直させるとともに、課外を有効活用し個に応じた指導を充実させることにより、最終学力の充実とそれを活用する力を育てる。	B			
			健康管理と安定した生活習慣が進路実現に重要であることを理解させ、出席皆勤を目指させる。（前年度129名→今年度160名）	B			
			Classiを通じて「進路に関する学年通信」「行事に関する学年通信」を配信し、学校の指導に対する保護者の理解や協力を得て、教育活動を充実させる。	B			
		(2)学校生活や行事を通じ、最上級学年としての自覚を持たせ、本校生のリーダーとしての資質と力量を育成する。	ルールを守り学習環境を整える指導を充実することにより、規範や秩序に関する意識を涵養する。	B	A	B	・修学旅行において規律ある行動ができた。 ・文化祭においても意欲的に参加し、帰属意識を高めることができた。 ・体育祭において本予想以上にリーダーの立候補者があり、各活動を通して生徒の成長につながった。
			昨年度実施できなかった修学旅行の実施により帰属意識を持たせ、天桜祭（文化祭）や蓄武祭（体育祭）に意欲的な参加に努め、学校のリーダーとしての資質を育成する。	A			
			学校生活や学校行事のあらゆる機会や場面を通じて責任感を育成する。	A			
		(3)人間としてのあり方や生き方についての自覚を促し、社会に通用し貢献できる人材を育成し、本校のグラデュエーションポリシーの完成を目指す。	常に自己管理に関する指導を行い、精神面と身体面の健康を意識させる指導を行う。	B	B	B	・校内の諸活動においては最上級生としての自覚を持ち精神的な成長につながった。 （「他者を頼みて尊重する態度」において成長が見受けられる。 ・「自己管理」に関しては学習面、生活態度面で、より一層の指導が必要と考えられる。
			他者を頼みて尊重する態度を育成することにより、望ましい人間関係を構築させ、互いに協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的で実践的な人格を涵養する。	B			
			学校生活のあらゆる場面を通じて他者を頼みて尊重することができる人格を育て、本校のグラデュエーションポリシーの完成を目指す。	B			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・時制の変更、学校行事の精選によってより効率的な教育活動を行う。
・学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動や部活動で生徒が自発的に行動できる場面を設定する。
・放課後の生徒会活動や部活動の時間を確保しつつ、学習をしたい生徒に対しては個別指導や補習等を実施する。
・職員間や分掌間での意思疎通を図り、組織的な学校運営を行う。

学校関係者評価

評価（総合）	
B	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	・特別補講は3～4日だが、例年このくらいの日数なのか。生徒の学力保障のためにもう少し増やさなくて大丈夫か。 ・入試合格者の評定等の分析から「好学プロジェクト」を第1学年と教務部と進路部共同で命名して実施しているのは名案だと思う。加論、各教科では以前から中学校からの橋渡し教材を取り組んでいたであろうから、折角「好学プロジェクト」としているので、生徒たちへの意識を上げるために、期間などをそろえて、考査以外の確認テスト日を一斉に実施するなど組織的な取組を生徒にアピールした方が効果が上がるのでは。 ・教務課において現状で考えることのできる様々な取組と工夫がなされており、高く評価できる。広報課もインスタグラム等での情報発信、634ニュース等の数多い発行など、時代に応じた対応が素晴らしい。 ・今の中高生はSNS を活用しているので、広報手段としてインスタによる発信はとても有効だと思います。 ・タブレットの利活用をチームで進めていかれるのは良いことだと思います。
B	・いじめアンケートについて実態はどのような状況か。毎週の情報交換はどのようにされているか。 ・社会の中でも様々ないじめ・暴力等人権侵害の問題が横行しているので、高校生のうちにしっかりとした心の教育を行ってもらいたいと思っている。その意味では、「学校いじめ基本方針」は細部にわたって取組がなされていると高く評価する。交通安全教室、非行防止教室、性暴力撲滅講演会等の実施においても、後日生徒に感想等の記録を残させておくことは後々効果があると思われる。 ・コロナ禍3年目の中で、生徒対応にも多角的視点が問われるにもかかわらず、生徒指導、学校行事等をきちんと実施できていることは評価に値する。保健環境課での生徒・職員支援はさらに強化していって欲しい。 ・自転車通学の生徒が多いため、交通安全に対する指導をしっかり行っていただきありがとうございます。大人の自転車マナーが悪いこともあるので、十分気をつけて登下校して欲しいです。 ・18歳が成人になったことからも、地域で気持ちのよい挨拶ができる高校生になると嬉しいと思います。
B	・好学タイムの反応はいかがか。 ・生徒向けの進路関係の流れは、目標やアドバイスもあり、分かりやすいもので大変素晴らしいと思う。朝の好学タイムや進路意識を上げる様々な取組が、Classiやオンラインと実際の体験と織り交ぜられていて、工夫が感じられる。課外等も希望生のため複雑なことが多いと思われるが、生徒への効果を期待したい。 ・「生徒のメタ認知力の向上」を進路の目標に掲げていることをはじめとして、多岐にわたる進路指導の手厚さが伺えて素晴らしい。総探・図書・ユネスコ課も横・縦の分掌と連携して活動を頑張って欲しい。
A	・相互授業参観に参加された若手とベテランの意見を聞かせて欲しい。